

### 「言語と文化と人」3 言葉は思考を洗練する道具である

これまでの外国語教育では、コミュニケーションが重視されてきました。ここに言うコミュニケーションとは、実用的なコミュニケーションをすることと、他の人に自分の意思を伝えることです。コミュニケーションは言語の重要な役割であることは間違いありません。しかし、言語にはもう1つのとても重要な役割があります。言語は、人間の思考や意識と直接に関わっているのです。

わたしたちは、小学校から大学までの教育で、授業や講義を聞いたり教科書を読んだりして勉強してきました。そして、両親や周りの大人、さらには先輩や友人などから会話を通して教えられたこともたくさんあります。また、ネットからもたくさんの知識や情報を得てきました。これらのメディアでは、図や表やイラストや写真などとともに、話された言葉と書かれた言葉がひじょうに重要な位置を占めています。現在に至るわたしたちの個人史を振り返ると、そこで言語が重要な役割を果たしていることがわかります。そして、言語に媒介された経験は蓄積されて、現在の「わたし」の思考や意識の素材になっているのです。

その後の哲学に大きな影響を与えたウィトゲンシュタイン（1989-1951）は、わたしたちは言語で考えるしかなく、言語で考えることを超えて考えることはできないと言いました。ロシア心理学の基礎を築いたヴィゴツキー（1896-1934）は、思考を発達させるためには、言語を媒介にしてより有能な他者といっしょに考えることが必要だと主張しました。言語は人間の思考や意識そのものを形成し、それをより洗練させるのです。

このように言語は人間の思考や意識に直接に関わっていてそれをさらに洗練するという役割があるのですが、これまでの外国語教育では言語のそのような面はあまり強調されませんでした。大学や大学院などの高等教育を受けている人たちは、外国語で話す場合でも教養ある人として話すはずですが、そのようなことを考えると、高等教育における外国語教育では、言語のそのような役割を重視した教育を企画し実践が行われるべきでしょう。そして、そのような外国語教育は、内容言語統合学習（content and language integrated learning）としてすでに一部で始まっています。

(889字)

(2020.12 Written by Koichi NISHIGUCHI)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場

合<sup>あい</sup>は、「たどくのひろば」を出<sup>しゅってん</sup>典として示<sup>しめ</sup>してください。

例<sup>れい</sup>) 出<sup>しゅってん</sup>典: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.